

第47回クリーン修学旅行を終えて

中村中学校長 菊地 諭美

6月24日-26日の3日間、伝統のクリーン修学旅行を実施しました。2日目の京都班別行動では、浴衣体験をしながら京都散策をしたグループの生徒たちが、地元京都の新聞に写真掲載されました。

(記事は、「猛暑到来、京都市34.8度」)でした・・・)

今年は、特に中村中学校の歴史と伝統の意義を改めて実感する修学旅行となりました。それは、2つのビッグサプライズがあったからです。1つは、中村中学校の比叡山参拝が50回を超えたことから、257世天台座主森川宏映大僧正から、「不滅の法灯」のレプリカを授与されたのです。

この式典には、森川座主の他、延暦寺の役員の方々、来賓の方々も同席され、生徒、引率者共々、日常ではない緊張感を味わうこととなりました。座主からは、「綺麗にしようとする皆さんの気持ちは尊く、伝教大師の教えに通じます。後輩にも伝え、末永く続けてください。」と、お言葉をいただきました。また、小堀執行からは、平成33年の伝教大師1200年大遠忌には、中村中学校のOBの方々には是非とも来ていただきたいとお話をいただきました。代表で授



与された古口君は、「半世紀続くクリーン修学旅行ですが、ここまですごい事とは思いませんでした。後輩たちにもこの伝統を受け継いでいてほしいです。」と、また引率者代表の古谷教諭は、「中村中学校が、そして生徒たちが大切にされていることを強く感じた。今回授与された法灯を、学校の誇りとして灯し続けていきたい。」と後日談を記しています。

2つ目のサプライズは、修学旅行が終えて数日後の事、滋賀県大津市にお住まいの竹村様からお手紙が届いたことです。竹村様は、真岡中学校の卒業生で、義兄が中村中学校の卒業生であることから、京都新聞に掲載された本校のクリーン修学旅行の記事を読み「懐かしく、誇らしい」と新聞を送ってくれたのです。また、「中村中学校の生徒、教職員の方々のご活躍を遠くの地から見守っております。」と温かい言葉をいただきました。遍照寺の鮎ヶ瀬住職様は、「嬉しくて学校に来てしまいました。」と、京都の友人が送ってくれた新聞記事を学校に届けてくれたのです。私たち中村中学校の生徒・教職員にとって、こんなありがたい事はありません。

どこの中学校でも実施している恒例の修学旅行には違いはないのですが、多くのOBの方々の努力と、学校を支援する地域の絶大な力、そして普段は見えない温かな力に支えられて。中村中学校が存在し、伝統のクリーン修学旅行が脈々と続いているのです。